



## [等軸晶]

等軸晶とは英語の equiaxed crystal もしくは eqiaxial crystal の和訳で、長さも結晶方位も等方的であり、特定の方向を向いていない多結晶体をいう。Equi は等、axis は軸(結晶軸)だから、そのままの直訳になっています。等軸晶でない多結晶体はたとえば柱状晶です。言葉の意味の説明はこれで終わり。あとは私の失敗談です。

もう40年くらい前のことですが、「equi-axed とは結晶を等方的に ax した、つまり斧で切った、の意味である。ところが日本の学者の誰かが ax を axis すなわち軸と勘違いして等軸晶と訳したのがそのまま術語になってしまった」という説明を聞きました。私は「へーそうか、気の利いた説明だ。目からウロコだあ！」とすっかり感心して、それ以来、機会あるごとにこの斧説をふれてあるいていました。そしてこんどダイカスト協会で出す「ダイカスト百科事典」でも私の分担執筆分に等軸晶が入っていたので、さっそくこの説を注釈のような形で書き加えて提出しました。

しかし、原稿を送った後でふと気がかりになりました。百科事典となると権威あるものと目されますから責任重大です。念には念を入れようと、たまたまそのときに来日された Flemings 教授にパーティーの席上できいてみました。ところが意外なことに、彼の意見では ax 斧ではなくて axis 軸だということです。40年間の思い込みがひっくり返るのはくやしいので、axis が axed と動詞形になるのはおかしくないか、と食い下がってみましたが、いや別にそんなことはない、という答えです。

それでも納得できず、英語については一家言のある京大の小岩昌宏教授にメールしたところ、それでは自分よりもっと権威者の意見を聞いてみようと言って英国の R.W.Cahn 教授に問合せてくれました。その結果、やはり斧説は否定されました。二人の native English speakers、しかも凝固学と金属物理学のそれぞれの権威にここまでいわれては私など降参するしかありません。さっそく百科辞典の編集担当に訂正のメールを送りました。

(つづく)

## 〔等軸晶〕（つづき）

私の記憶では斧説は大学時代の恩師S教授の書かれたアグネ社の「百万人の金属学」の中の凝固に関する章で読んだものでした。ただし私は単に恩師のことだから盲信したわけではなく、axed と動詞形である以上は斧で切るという意味のほうが妥当だと思ったのです。

とにかく、ふと不安になって聞く気になってよかった。おかげで大きな(でもないか?)間違いを後世に残さずにすみしました。兼好法師も「少しのことにも先達はあらまほしきことなり」と言っていますが、私の場合、頼りにしたさいしょの先達がまちがえたのだとすると「先達は 3 人くらいあらまほしきことなり」といったほうがよさそうです。

さてこういう結末になったので、この際ついでに間違いの元を確認しておこうと、先日図書館でアグネ社の本を探し出してS教授の章を開いてみました。ところが意外なことに、てっきり書いてあると思った等軸晶の語源説がどこにもないのです。まるで狐につままれたようでした。記憶というものはほんとにあてにならないものです。これも確かめてよかった。語源説のまちがいを是正したあと、こんどは誤説の震源地についての間違いをおかすところでした。

でもひとつだけ問題が残ります。このもっともらしい誤説を私はいったいどこで覚えたのか？ こんな気の利いたことを自分で思いついたという記憶は、残念ながら、ない。やはりS先生が「百万人の金属学」以外のどこかに書いたのか、あるいは話したのか？ それともほかのひとか？

そこで同じS研究室出身の梅田教授にきいてみたら、なんと彼も等軸晶問題がずっと気になっていたらしく、いろいろ海外の学者にも聞いて、私と同じ結論に達していたという。そして、S教授が斧説について語っていたのは確かだが、確信していたようではなかったという。そうだとすると、それを書いて発表するはずはないか？ . . . . 本筋の問題が解決した代わりに新しい問題が出てきて謎は余計な方向に深まるばかりです。